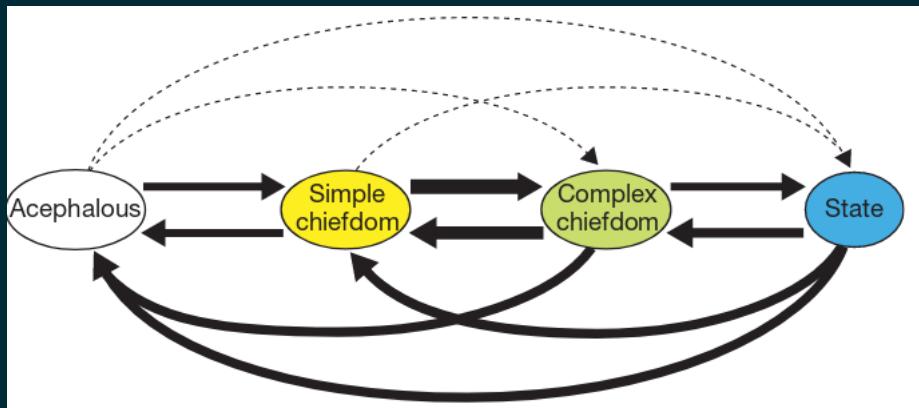


東南アジアの自然と農業研究会
2022/12/23 17:00 - 18:30 @ASAFA

ラオス北部の水田村における土地相続と 経済的格差の継承

富田晋介（名古屋大学）

人類史における統治組織の発展と衰退



(Currie et al. 2010. Rise and fall of political complexity in island South-East Asia and the Pacific, Nature)

階層的社會が生じた理由（一部）

(Earle 2011; Bowles et al. 2010など)

- 農産物の余剰生産、交易の支配
- 戦争
- 不平等の固定化
 - イデオロギー、認証制度
 - 生態資源の増減による人口圧の上昇
 - 集約的農業による不平等の継承

経済的格差の継承と社会階級

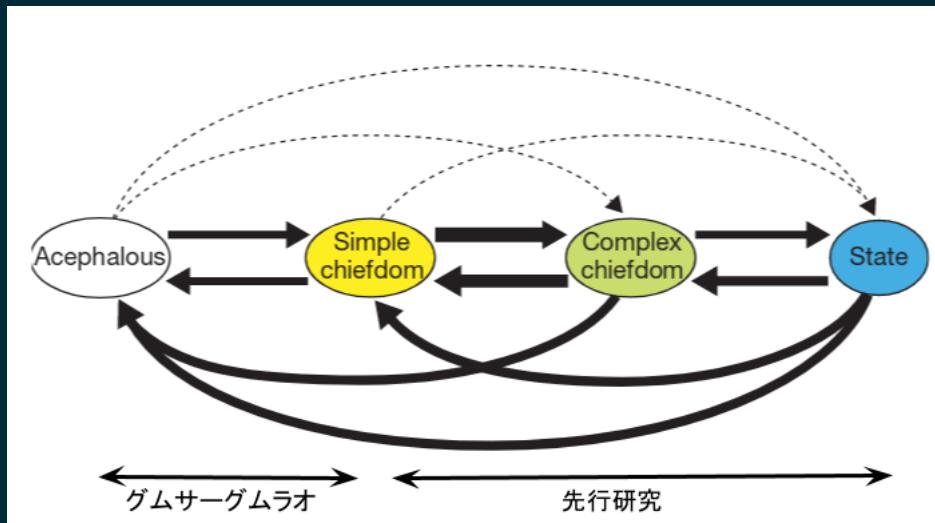
- 集約的農業によって社会の階層化が生じた (Shenk et al. 2010)
 - 土地が財産化し、継承可能になり、守る対象になった (Mulder et al 2009; Hooper et al. 2018)
 - 親世代の経済的格差が子供世代に継承され、世代を経るに従い拡大 (Mulder et al. 2009)
 - ジニ係数で0.48。アメリカや日本よりも格差が大きい。 (Mulder et al. 2009)
- 一方で、多産多死社会であるはずなので、格差は継承されにくいのではないか。
 - 子供の出生数、死亡数を予想できない。
 - 世帯間のばらつきが大きい。

東南アジア大陸山地部における 集約的農業と首長社会

- ムアン

- 首長が統治する階級社会（貴族、平民、奴隸）（加藤 2000; Stuart-Fox 1998; 増原 2011）
- 灌溉水稻作による余剰生産（Leach 1970; Scott 2010など）
- 用水管理組織の発達（石井 1975; 加藤 2000; Stuart-Fox 1998など）
- グムラオーグムサ (Leach 1970)

先行研究の位置づけ



グムラオとグムサ

- 山地社会

- グムサ（階級社会）とグムラオ（平等）を揺れ動く
- 首長は関係性で成り立つ

- 低地社会（水稻作）

- グムサ
- 土地との関係が深く、首長はより固定的

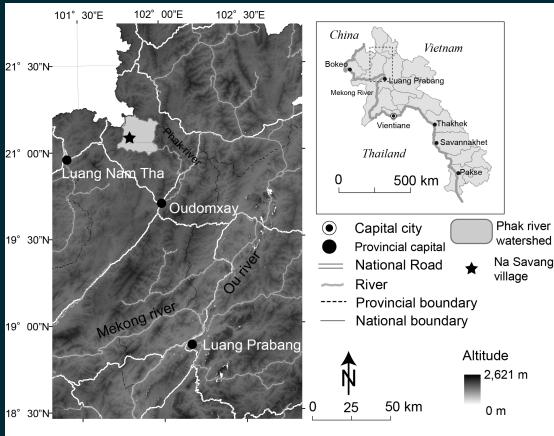
- 土地の相続と階級の固定化

- 相続者を減らす

本発表の目的

- 多産多死条件下においても、集約的農業は社会の階層化を促し
うるのか。
 - 経済的格差は継承されるのか。
 - 経済的格差に関する分与者の土地と相続者
 - 相続者数に関する人口学的要因（出生、死亡、移動）

調査地の概要

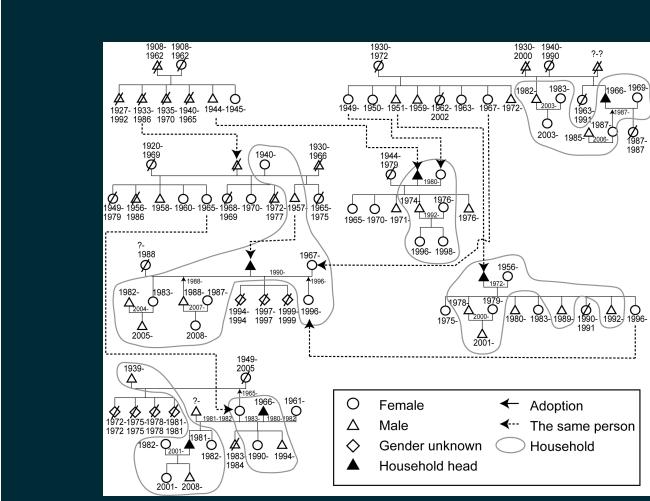


- ラオス北部の盆地に位置する1村
- タイ系言語話者のヤン
- 100年以上前に移住
- かつてのムアンの中心
- 小規模なムアン、水利組織なし
- 自給自足的な灌漑水田稻作
- 雨期作のみ

村の系譜

- 19世紀まで
 - ムアン・アーアイ
 - チャオパニヤー、ピアの官位をもつ人々が統治
- 19世紀末
 - ムアンからターセーンへ
 - ターセーンの長は、この村のピア
 - 26村、2216人（1957年の人口統計）
- 1961年：解放
- 1975年以降：ターセーンからアーアイ村へ
- 1979 - 1992年：農業集団化による飯米不足
- 2000年以降：商品作物栽培が拡大、米の商品化
- 2007年：耕耘機増加
- 2009年、2010年：携帯電話と電気が普及

人口の再構築



調査期間

- ・2003年から2007年：のべ1年半の滞在
- ・2019年まで毎年データを更新

調査準備

- ・村の過去100年間の年表の作成

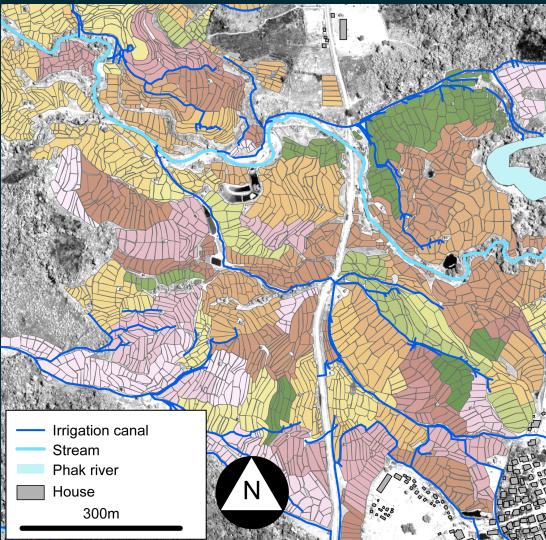
インタビュー

両親、キヨウダイ、子供について、名前、性別、出生年、死亡年、移入年、移出年、村内移動、結婚・離婚・死別

世帯の再構築

- 世帯の定義：消費と生産を共有する集団
- ラオスの定義：コープクア (family)、ランカー (house)
- 村における消費と生産の単位：共食協働
- どの家屋にいつ誰と住んでいたか
- いつ水田を相続したか

世帯の保有水田面積の再構築



調査期間

2015年まで

地図作成

- ・高解像度衛星画像を用いたベースマップの作成
- ・現地踏査による水田区画の同定
- ・井堰・用水路の同定

インタビュー

水田と用水路の保有者や耕作者、開拓者・年、分与者・年、相続者・年、売買、交換

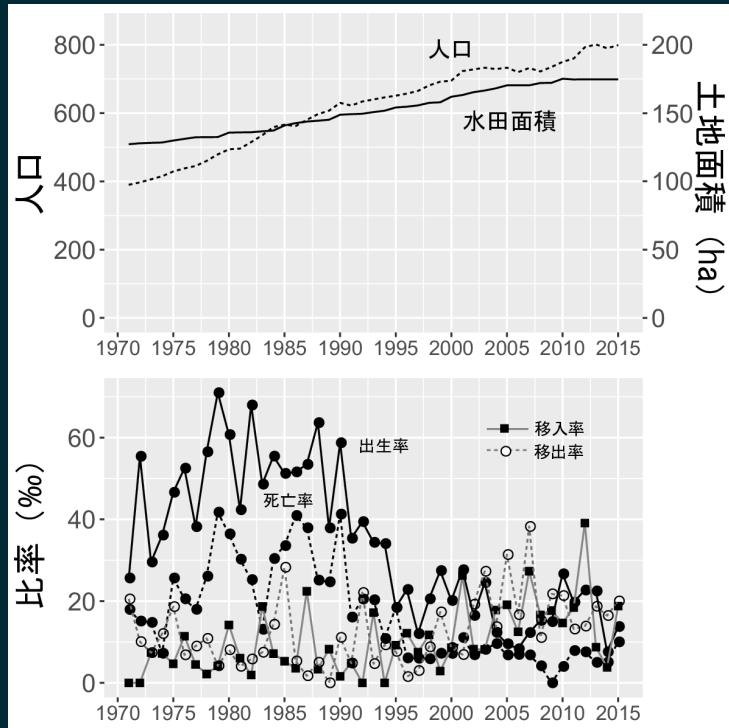
データの妥当性の検討：人口と世帯

- 家系人口学的方法：過去に遡るほど過小評価
- クロスチェック：親族間、時系列的な記憶力が良い人
- 人口構造および世帯構成
- 1971年から2019年までの1537人：出生、死亡、移動、居住地（家屋）、世帯、親族関係

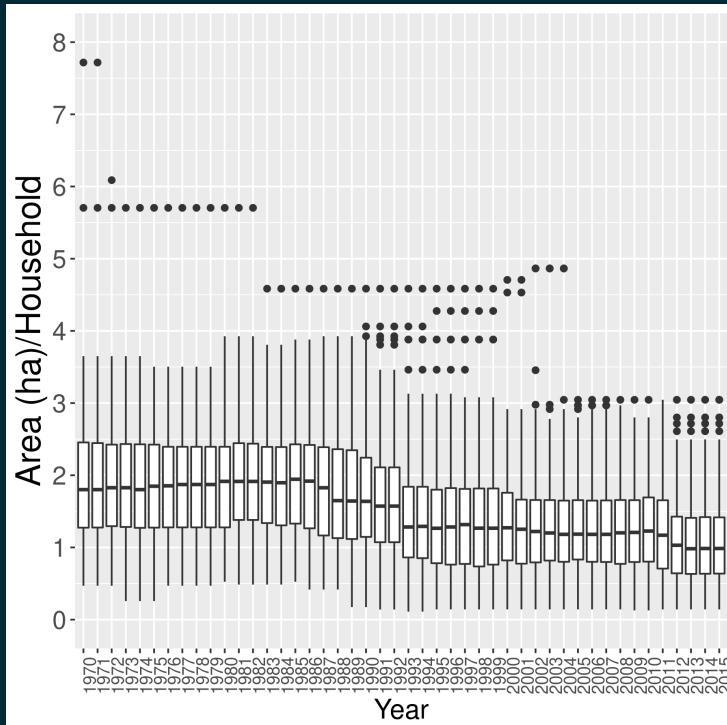
データの妥当性の検討：世帯の水田面積

- 1900年から2015年までの水田地図
- 9000区画、180haの水田の属性を同定
- 人口・世帯データとの整合性
- 1971年から2015年のデータを整備
- GISを用いて保有者・年ごとに集計

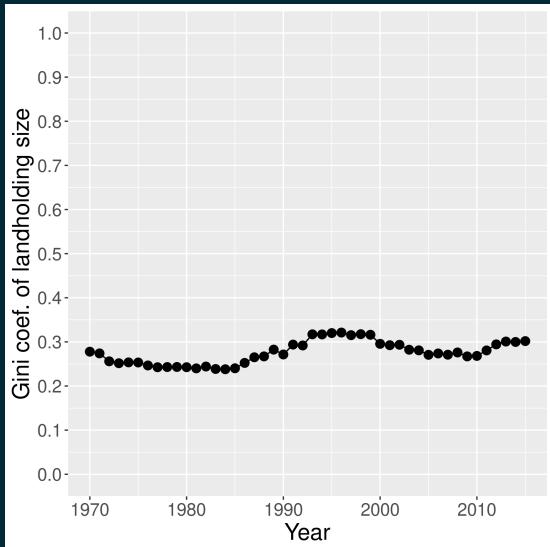
人口と水田面積：1971-2015



世帯の保有水田面積：1971-2015



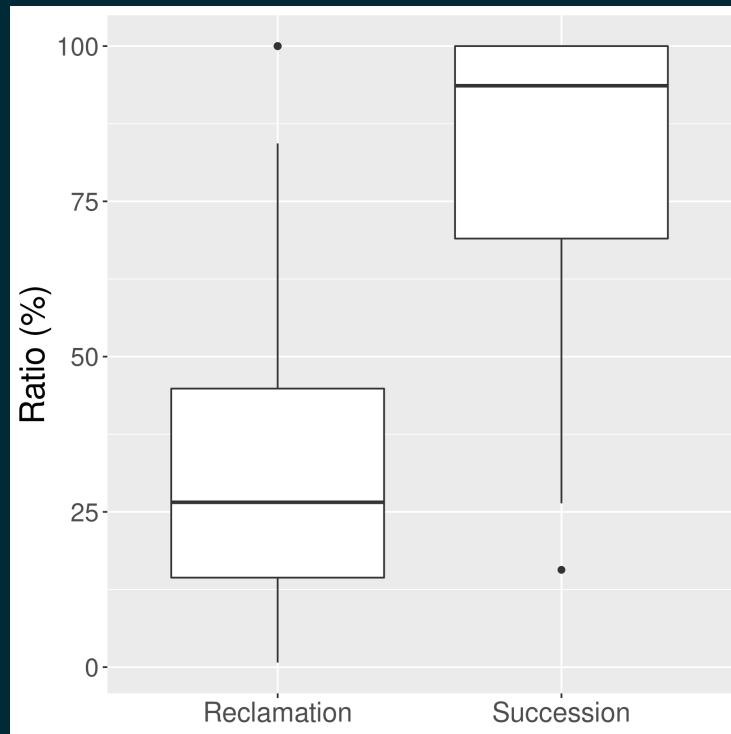
世帯間の経済的格差：1971-2015



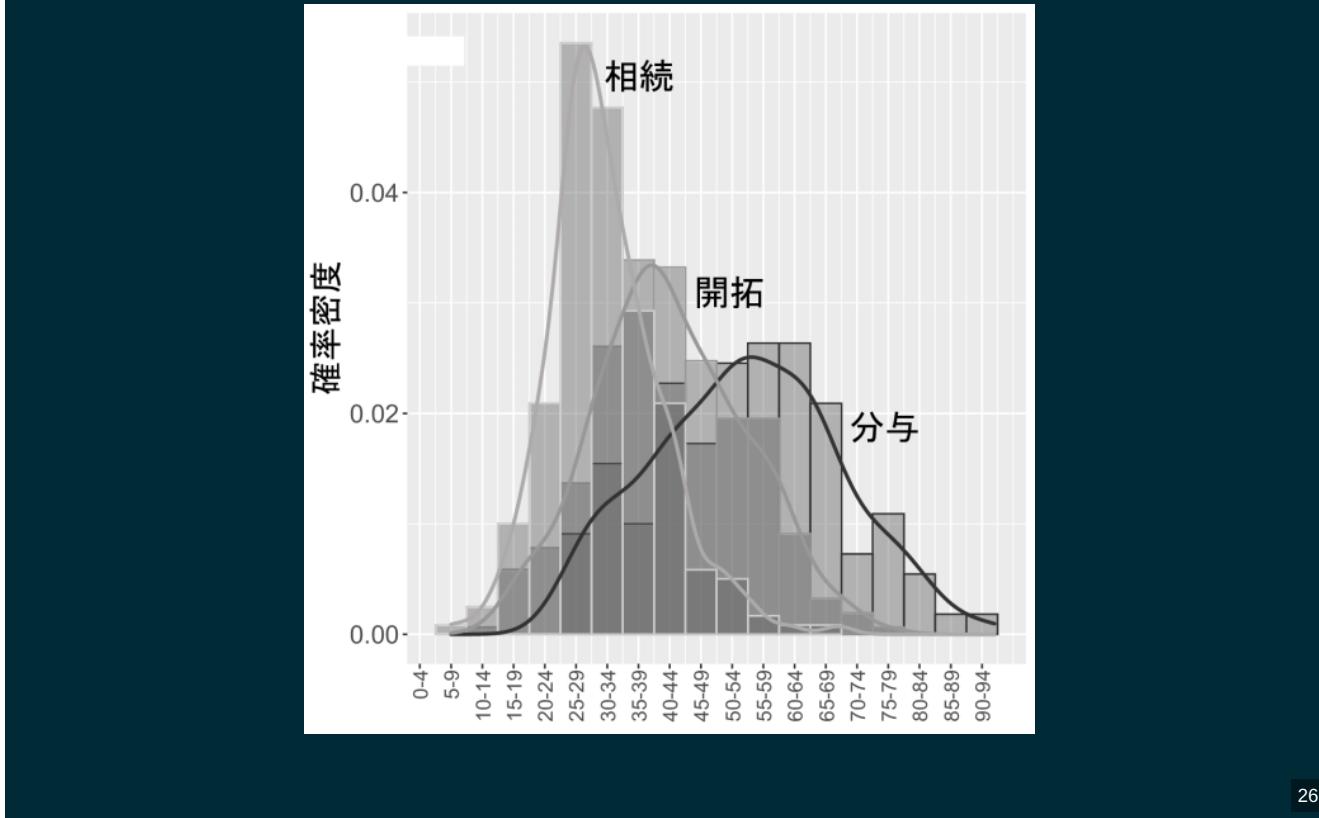
- ジニ係数
 - 経済的な格差指標
 - 完全に平等が 0、一人が独占が 1
 - 世帯の水田面積から計算
- Mulder (2009)の基準では、集約的農業(0.48)より焼畑社会(0.27)に近い。

世帯の保有水田の由来

- 相続と開拓。相続由来が多い。



相続、開拓、分与時における年齢



分与者と相続者の関係

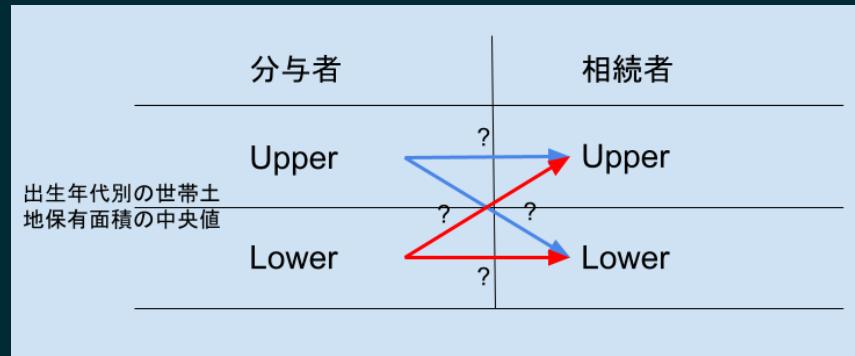
関係	分与者	相続者	性別	イベント数	割合 (%)
親子	父	息子	男	99	44.8
		娘	女	30	13.6
	母	息子	男	20	9.0
		娘	女	9	4.1
	養父	養子	男	7	3.2
		養女	女	1	0.5
	養母	養子	男	5	2.3
		養女	女	2	0.9
	継父	息子	男	2	0.9
		妻の養子	男	1	0.5
キョウダイ	兄	弟	男	23	10.4
		妹	女	3	1.4
	姉	弟	男	1	0.5
		妹	女	1	0.5
	異父兄	弟	男	4	1.8
	夫婦	夫	女	3	1.4
その他	妻	夫	男	2	0.9
	父方の伯父	甥	男	3	1.4
	父方の従姉	従弟	男	1	0.5
	父方の祖父	男孫	女	1	0.5
	母方の祖父	男孫	男	1	0.5
	義兄	弟の妻	女	1	0.5
	母方の伯父	甥	男	1	0.5
		姪	女	1	0.5
		姪の娘	女	1	0.5
	合計			221	100

- 理念的には、父からすべての息子に均等配分
- 実際には、その他の関係が多数
- 分与者が複数の場合がある。
- 分与者よりも面積が多くなる世帯もある。
- 出生数の多さと死亡率の高さが関係

結果と考察

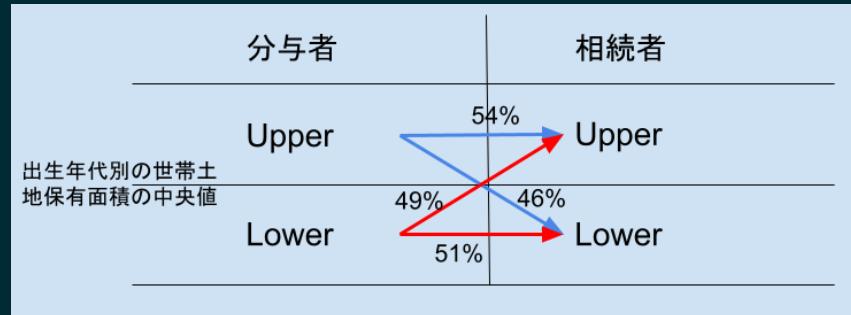
- 階級の世代間変動
- 変動の要因
- 相続者の数の変動要因

階級の世代間変動



- 分与者の出生コホート：1900年から1969年まで、10年間隔
- 相続者の出生コホート：1930年から1989年まで、10年間隔
- 世帯の水田面積：25歳以降の最大値
- 事例数：183

階級の世代間変動: 相続のみ



階級の世代間変動: 相続 + 開拓



変動の要因

- Upper -> Lowerは、Upper -> Upperに比べて何が異なるのか。
- Lower -> Upperは、Lower -> Lowerに比べて何が異なるのか。
- 仮設：親の保有面積と子供の数
- 親の保有面積、30歳まで村に生存した子供数、30歳まで村に生存した息子の数
- 世代によってこれらが異なるので、変量因子を親の出生コホートとして混合モデルを用いた。
- 親子関係である事例を抽出：143

UPPER -> LOWER

	Estimate	Std.Err	z.value	P	Odds
(intercept)	-0.3704827	0.2759570	-1.3425378	0.18	0.69
P.land	-0.5917634	0.3549918	-1.6669775	0.10	0.55
N.Kids30 (F + M)	-0.1645435	0.3401012	-0.4838076	0.63	0.85
N.Son30	0.8877773	0.3702422	2.3978288	0.02	2.43

- 親の土地が少なく、息子の数が多い場合に階級が下がる傾向がある。

LOWER -> UPPER

	Estimate	Std.Err	z.value	P	Odds
(intercept)	-0.1129848	0.2443196	-0.4624468	0.64	0.89
P land	0.5539382	0.2633397	2.1035120	0.04	1.74
N. Kids30 (F + M)	-0.1242067	0.4292211	-0.2893769	0.77	0.88
N. Son30	-0.3335993	0.4288658	-0.7778641	0.44	0.72

- 親の土地が広いと、階級が上がる傾向がある。

相続者数の変動

- 相続者の数は何によって変わらるのか。
- Upper -> UpperとUpper -> Lowerの比較
- 兄弟の人数（出生）、移出数、死亡数（30歳まで）
- 事例数：64

UPPERからUPPERになった世帯の兄弟の人数、移出数、死亡数

	Estimate	Std.Err	z.value	P	Odds
(intercept)	1.6572070	0.6799678	2.4371845	0.02	5.24
N.birth (Male)	-0.7047374	0.2418364	-2.9141085	0.00	0.49
N.mig	-0.0101059	0.5784117	-0.0174717	0.99	0.99
N.death	0.8888482	0.3579322	2.4832867	0.01	2.43

- 兄弟の出生数が少なく、死亡数が多い場合に、UpperからUpperになりやすい。
- 相続者の数は、コントロールされていない。

結論

- 多産多死の条件下では、経済的な格差は継承されにくい。
- つまり、集約的農業（土地の財産化）だから社会的階級が生じるとはいえない。
- 経済的格差と社会階級を結びつくには、相続人数のコントロールが必要
- 水稲作を基盤とした低地社会も、経済的にはグムラオになる構造をもつ。